第6回日本LCA学会研究発表会報告

第6回日本LCA学会研究発表会実行委員会

Conference Report on the 6th Meeting of the Institute of Life Cycle Assessment, Japan

Executive Committee of the 6th Meeting of the Institute of Life Cycle Assessment, Japan

1. はじめに

第6回日本LCA学会研究発表会は、平成23年3月2日（水）～4日（金）の3日間、東北大学川内北キャンパスで開催された。前号の速報に引き続き、本号では研究発表会を総括する。

2. 参加人数

第6回研究発表会への全参加者数はTable 1に示す通り、東京近郊の開催であった第5回を下回ったものの、第4回を上回り、過去2番目の人数となった。3月2日（水）午後におこなった基調講演は一般公開とし、研究発表会参加者以外の方々 32名にも無料で聴講していただいた。

3. 発表件数

既報の通り、第6回日本LCA学会研究発表会の一般講演では、LCA研究に関する発表を幅広く募集した。平成22年11月に第9回エコバランス国際会議が開催されたが、日本語で議論することも重要と考えて同会議でも広く呼びかけた。また、日本LCA学会の研究会での活動内容および、昨今話題となっているLCA研究に関連するトピックスを密に議論するため、6つの特別セッションを設けた。

発表者には発表申込時に発表概要の提出とともに、「希望セッション区分」「主な手法」「応用分野」「希望発表形式」をそれぞれ1つずつ選択していただいた。これらの情報を実行委員会内に設けたプログラム委員会で精査し、口頭発表についてはパラレルセッション（口頭発表）が最大で

四つとなるよう、発表概要に応じて44のセッションに分類した。ポスターセッションではポスター単独での発表に加え、同じ題目と要旨で口頭発表とポスター発表ができるダブルエントリーもこれまでと同様に採用した。Table 2に、それぞれのセッションの発表件数を示す。第5回の190件を上回り、過去最大の207件の発表がおこなわれた。

Table 2 各セッションの発表件数

セッション名		発表件数
パラレルセッション		173
特別セッション	持続可能な資源利用	17
	一次産業と食のLCA	16
	バイオマスエネルギー	13
	企業LCA/LCM	13
	環境教育	11
	ニューツーリズム	4
一般セッション	ライフスタイル(1、2)	8
	製品とプロセス(1、2)	8
	社会と建設(1、2)	8
	バイオマテリアル	5
	建築用木材	5
	廃棄物管理	5
	インパクト評価	5
	運輸	4
	社会資本	4
	ウォーターフットプリント	4
	発電技術	4
	社会経済の持続可能性評価	4
	廃プラスチック	4
	生物多様性	4
	セメント・コンクリート	4
	LCA データベース	4
	サプライチェーン	4
	製品・技術評価手法	4
	持続可能な消費	3
	意思決定	3
	建築LCI/DB	3
	食品廃棄物	2
	ポスターセッション	
	うち、ダブルエントリー	50

Table 1 会員区分別の参加者数(確定値)

会員区分	第6回研究発表会 参加者数	(参考)第5回研究発表会 参加者数
賛助会員	25名	44名
正会員	171名	164名
学生会員	110名	90名
非会員(一般)	45名	84名
非会員(学生)	18名	28名
基調講演参加者	32名	24名
合計	401名	434名

4. アンケート結果

研究発表会参加者に配布したアンケートの質問項目と回答集計結果を、Table 3にまとめる。参考として過去4回(第2～5回)のアンケート結果も併記した。

アンケートのほぼ全ての項目において、大半の方から肯定的な回答を頂いた。また、全体として、第5回と似た回答傾向を示しており、開催の情報源として学会webと回答した割合が倍増したこととも併せて、学会参加者が固定化してきていることをうかがわせる。

第6回では、「基調講演の内容」「口頭発表の会場」に、これまでで最も良い評価をいただいた。その一方で、会場の設備、特に、無線LANの利用方法やPCの電源について、自由記述欄に多くの意見をいただいた。本会では前回の開催より、要旨集をCD-ROM形式とした。これに起因してPCを用いて要旨集を閲覧する参加者が増えたために、PCの利用環境に対する要望が増えたと認識している。このような要望を次回開催に鋭意反映したいと考えている。

口頭発表の時間について肯定的な回答がこれまでで最も少なかった。また、自由記述欄には「昼休みが足りない」「受付の仕切りが悪い」などの意見もみられた。これらの要望は、時間に追われて聴講したい発表を逃してしまうことに対す

る要望と思われる。活発な議論が行われることは実行委員会としても非常に喜ばしいことではあるが、今後の研究発表会をより魅力的な発表・情報収集の場として提供していくために、発表時間や会期中のスケジュールなどについて今後討議を行い、次回に向けて準備を進めたい。

5. おわりに

再び東京近郊を離れて開催した第6回日本LCA学会研究発表会だが、参加者数は第5回研究発表会を下回ったとはいえ過去2番目であり、そして発表件数は過去最多となったことが何よりも嬉しいことであった。学生の発表数は今までで一番多くなり、学生の研究成果の発表の場としての研究発表会の位置づけが明確になりつつあることが印象づけられた。

第7回日本LCA学会研究発表会は、千葉県野田市の東京理科大学野田キャンパスで開催される。東京理科大学野田キャンパスは、東京とつくばの中間に位置し、近くには利根川と江戸川を結ぶ利根運河があり、自然が豊かなところである。また野田キャンパスには、理工学部、基礎工学部及び薬学部があり、リサーチ型キャンパスとして位置づけられている。

Table 3 研究発表会アンケート集計結果の推移

	質問項目	肯定的な回答の比率 [%] ※				
		第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
発表会一般	開催地	93%	77%	72%	73%	72%
	開催時期	75%	82%	88%	86%	79%
	開催期間	70%	78%	89%	86%	92%
	発表申込時期	73%	71%	61%	83%	74%
	発表申込期間	92%	96%	91%	92%	86%
	講演要旨提出時期	81%	73%	68%	85%	80%
	講演要旨提出期間	97%	96%	86%	90%	89%
口頭発表	申込手順	96%	81%	84%	89%	88%
	発表形式	93%	99%	98%	97%	97%
	ダブルエントリー		100%	98%	94%	94%
	口頭・発表時間	87%	99%	85%	86%	81%
	口頭・質疑応答時間	83%	86%	84%	78%	79%
発表	ポスターセッションの数	96%	85%	85%	75%	94%
	口頭・会場	75%	86%	59%	87%	96%
	ポスター・発表件数			90%	86%	72%
	ポスター・セッション時間	76%	79%	76%	69%	78%
	ポスター・時間配置	77%	97%	93%	84%	90%
講演	ポスター・会場	34%	77%	74%	87%	78%
	基調講演・内容	66%	60%	83%	91%	94%
	基調講演・人数	79%	83%	76%	76%	98%
	基調講演・時間	92%	77%	81%	83%	79%
交流会	基調講演・時間配置	85%	88%	87%	91%	88%
	交流会・内容	94%	96%	87%	97%	98%
	交流会・時間	84%	96%	89%	91%	83%
	交流会・日程			85%		
	交流会・開始時間	89%	90%	92%	94%	94%
その他	交流会・会場	21%	77%	92%	100%	79%
	参加費	65%	69%	73%	64%	77%
	要旨の形式	88%	92%	92%	86%	78%
	学生発表表彰	92%	84%	89%	74%	83%
	次回発表・聴講意向	89%	77%	100%	82%	85%

※「行きやすい」「適当」「有意義」「やや有意義」と回答したもの

第6回日本LCA学会研究発表会の1週間後に発生した東日本大震災からの復興には、社会インフラの整備やエネルギー政策の改変、さらには社会生活の安定化のため、持続可能な社会システムを目指した大きな変革が必要となることが予想される。このような状況で、日本LCA学会の果たす役割は大きく、第7回研究発表会での研究発表の成果が、今後の新たな社会システム構築の一助となることを期待している。

最後に、第6回研究発表会実行委員の皆さん、東北大学現地準備委員の皆さん、会場でさまざまな手伝いをしていただいたアルバイトの学生の皆さん、参加者の対応をしていただいた学会事務局の皆さんには、研究発表会の企画から準備、運営、後片付けまで多大な尽力をいただいた。この場を借りて改めて感謝いたします。